

図画工作科教育法 I における地域に根差した教材開発に関する実践報告

吹 氣 弘 高¹⁾ 倉 原 弘 子²⁾

A Case Study of the Development of Teaching Materials Connected with Methodology of Teaching of Arts and Crafts I

Hiroataka Fuki¹⁾ Hiroko Kurahara²⁾

(2016年11月25日受理)

I はじめに

私たちの祖先は、中国や欧米など他国の文化を学習し吸収して日本のオリジナルな文化を創造してきた。その歴史の上に日本の美、日本らしさ、日本人の心が育まれてきたのである。グローバル化時代をたくましく生きる国際人としての日本人を育てるためにはアイデンティティの教育が必要不可欠である。そして、日本人であることに誇りを持ち、自国の文化を世界に発信できる国際人を育成するためには、児童が身近な郷土の文化、地域の伝統に触れ、それらを知る教育を重視しなければならない。小学校学習指導要領（平成20年）の図画工作科における改善の基本方針の中に次のように示されている。

「生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。」「生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。」「美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。」^[1]

具体的には、各学年の内容に、材料や鑑賞する作品に対して「身近にある」、「身の回りの」、「親しみのある」といった言葉で、地域に密着した材料や学習活動の工夫を求めている。すでに、平成14（2002）年から実施された学校週5日制のもとで「ゆとり」教育がスタートし、児童生徒に「生きる力」を育成することを重視し、「総合的な学習の時間」が創設され、地域の伝統や文化に関する教育の充実をめざした様々な授業実践が行われてきた。図画工作科においても地域の資源を活用した授業研究は行われているが、その多くはイベント的な実践になり、

学校と地域が連携した特色ある教育活動、「魅力ある学び」として年間カリキュラム等に位置づいていないようである。また、学校の危機管理上の問題や、英語教育、道徳教育など新たな教育課題への対応に追われ、必要であるとは分かっているにもかかわらず、伝統や文化に関する教育の充実を図る教材開発等にまで手が回らない状況もある。そこで、学校の教育活動には地域との信頼・協力関係の構築が重要であることを実践的に理解するため、図画工作科教育法 I において、教育実習に向け実習校への訪問や具体的な実習内容等の確認をしている教育学部3年生、136名の学生を対象に学生の母校（93.4%）である、それぞれの地域環境を生かした題材化と学習指導案を作成させた。それらの学習を通して、教育実習で担当する学年児童と地域環境をつなぎ、子どもたちが地域環境のよさに気付く学習内容の構想や授業の展開を考えさせた。作成した各自の指導案はグループ相互と、全体での評価検討を加え、より良い指導案に改善するという過程を通じた彼らの心情面にも着目し、地域環境を生かした図画工作科の題材化が学生の地域環境への眼差しをどのように変えていくのか、その教育的意義について考察してみたい。これが本研究の目的である。

II 学習指導要領における地域環境の活用について

地域の活用について学習指導要領ではどのように触れているのかを振り返ってみよう。

1989年（平成元年）改訂の学習指導要領の特徴の一つが鑑賞の充実であり、その実現のために鑑賞の対象として第4学年で美術作品、第5学年で我が国の美術作品、第6学年で我が国及び諸外国の美術作品が具体的に追加されたことが挙げられる。その背景として、1987年（昭和52年）12月の教育課程審議会の答申で示された、文化と伝統の尊重と国際理解の推進がある。「幼稚園、小学

別刷請求先：吹氣弘高，中村学園大学教育学部，〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1

E-mail:fuki@nakamura-u.ac.jp

1) 中村学園大学教育学部児童幼児教育学科准教授 2) 中村学園大学教育学部児童幼児教育学科助教

[1] 文部科学省，2008，『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版 p3 改善の基本方針抜粋

校、中学校及び高等学校の教育課程の基準の改善について(答申)」においては、教育は学校教育で完結するという考え方や社会の学歴評価の状況からの脱却をめざし、これからの学習は学校教育の基盤の上に各人が生涯を通じて行われるべきものであり、より一層、学校外の地域環境との連携が重要であるということを示した。

続く1989年(平成10年)7月の教育課程審議会答申では「生きる力」の育成を基本的なねらいとし、「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成」「各学校の創意工夫ある特色ある教育、特色ある学校づくりの推進」などが示された。これを受けて改訂された1998年(平成10年)の学習指導要領の大きな特徴が「総合的な学習の時間」の創設である。地域の題材や学習環境の積極的な活用による特色ある学校づくりが強調された。この「総合的な学習の時間」の創設と総授業時間数の削減の影響を受け、図画工作の配当時間数は小学校中学年で年間10時間、高学年で20時間削減されたが、図画工作科においても「地域の身近にある材料などを取り上げるようにすること」や『B鑑賞』では「児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用する」^[2]と示された。

次に、2006年(平成18年)の教育基本法、翌年の学校教育法の改正を踏まえた2008年(平成20年)改訂の学習指導要領では、確かな学力の育成に向け、各教科の基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得・活用と、さらにそれらに関連付け解決する総合的な学習(探求活動)の充実が求められた。この改訂の特徴は、言語活動の充実や理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、道徳教育の充実、体験活動の充実、英語教育の充実などである。図画工作科では、この改訂から教科目標に「感性を働かせながら」という文言が加えられた。感性は、様々な対象や事象を心に感じる働きであり、「感性を働かせながら」学ぶということは、身近な家庭や学校だけではなく、積極的に地域環境を活用するよう示唆しているのである。子どもたちの関心が身近なものから徐々に広がっていくということに配慮しながら授業をすすめ、その広がりに合わせて地域環境を活用するよう求めている。

そして今年(2016年5月26日)、次期学習指導要領改訂に向けた「芸術ワーキングとりまとめ」の中で、

「グローバル化する社会の中で、子供たちには、芸術を学ぶことを通じて感性等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。」^[3]

活の中に息づいている我が国の伝統や文化に目を向け、学校において体験的な学習を行い、我が国の伝統や文化と現代の生活とのつながりが実感できるよう、特定の教科だけでなく、複数の教科等による学習の連携を図るなど、指導の充実・改善を図り、総合的な視点から我が国の伝統や文化を捉えて指導することが重要である。^[3]

と示された。芸術系教科・科目が授業の中で、なぜそれを学ばなければならないのかということを実感することについては、教員の意識も子どもたちの意識も弱いのではないかという指摘を受けて、

「身の回りにある芸術やその働きに気付かせていくようなきめ細かな指導を重ねることや、表現するという行為を通して周囲と関わり、生活や社会と自分との関係性を実感するという体験を重ねることが重要である。」「授業で学習したことを、授業時間以外に、学校や地域で表現する場を用意するなど、学校自体が学校における学習と社会をつないでいくことに取り組むことも重要である。特に芸術系教科は、教室の中の閉じた人間関係にとどまらず、教職員や保護者、地域の人々などと連携ができる教科であり、身近なところから社会に関わる活動を進めていくことも、子供の学びを深めていく上で効果的である。」^[3]

と述べている。子どもを取り巻く生活環境が、ますます身近な地域環境とのつながりを図りにくい現状を捉え、今を生き、そしてこれからの地域、日本を創造していく子どもたちに、自らの「感性を働かせながら」身近な地域環境を生かした地域学習を通して、自分の住居環境である地域を大切に思う気持ちをはぐくむ情操教育の必要性を訴えている。

III 地域環境について

近年、地域再生など町おこしを目的とし地域ブランドが注目を集めている。教育分野においても全国各地域の将来を創造する市民リテラシーを育成する取り組みに関心が高まっており、「地域ブランド」に関する題材研究としては、橋本忠和(2013)の「図画工作科における地域ブランドの教材化の研究(1)」^[4]などの研究論文等に学ぶことができる。しかしながら本稿では、「ブランド」という学生にもイメージしやすく聞き慣れた言葉を用いずに「地域環境」という言葉を学生に提示している。その理由は、「ブランド」という言葉が与えるイメージの強さがあるからである。まだ、ブランド＝個性「らしさ」と

[2] 文部科学省、2008、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版 pp94-98

[3] 文部科学省教育課程部会、2016、芸術ワーキンググループ(第8回)配布資料2取りまとめ(案)抜粋

[4] 橋本忠和、2014。「図画工作科における地域ブランドの教材化の研究(1) ー地域ブランドの教材化への構想ー」大学美術教育学会誌46号. pp.197-204

いう定義は一般化されてはならず、自他の差別化や自らの優秀性を主張する意味合いを学生に感受させすぎからである。学生には母校地域で既に一定の価値を認められているもの、他の地域に自慢できるものというイメージから「私の地域には何もない」という見方をさせたくなかった。地域環境という言葉には、他の地域に誇れる、自慢できる地域環境ではなく、それぞれの地域が長い時間をかけて継承した、その地域ならではの歴史や文化・産業・生活・人の営みから、本当に価値あるもの、子どもたちに大切にしてほしいものを題材化してほしいというねらいがある。

本授業で言う地域環境とは、子どもたちの生活基盤となる住居・小学校がある場所であり、住居地域における他者とのかわりを通して、社会性や規範意識を身に付け、さらには自分という存在の意味を見出すための重要な空間のことである。豊かな自然環境、文化的所産や施設等の環境、行事や祭事など様々なものが含まれる。そして、それらを支える地域人材、そこに暮らす人々の営みも重要な地域環境である。これら地域が有する様々な地域資源から子どもたちの学びに生かしたい教育資源を取り出し次のように整理した。

【自然環境】：山・溪谷・川・海・湖、森林、集落、盆地、丘陵地などの地形、寒暖・積雪などの気象条件、生息する動植物など生態系 など

【文化的環境】(有形)：古墳・城址などの史跡、神社・仏閣などの伝統的建造物、絵画・彫刻、工芸品、書跡(碑文)、古文書など (無形)：能・狂言、文楽、歌舞伎、落語・漫才などの伝統芸能、音楽、陶芸・木工などの工芸技術 など

【教育的環境】：市民センター、市民図書館、公民館などの公共的施設、異校種の施設、動植物園、自然公園、水族館、博物館、美術館、科学館、農業試験場など各種試験場、ゴミ処理場、浄水場、プラネタリウム、郷土資料館、偉人の記念館、公共の運動場 など

【行事的環境】：雛祭り・こいのぼり、七夕、海開き・山開き、火祭り・祇園祭・豊穰祭など各地の行事・祭事 など

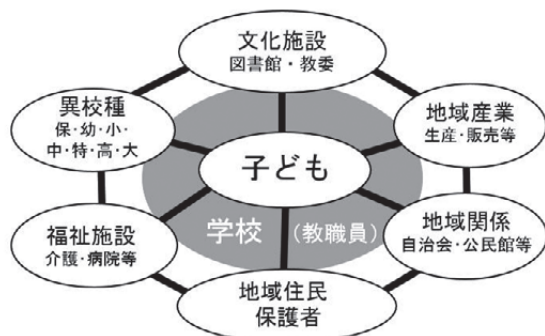


図1 地域の人材ネットワーク

ど

【地域人材・人の営み】：上記の全ての地域環境を保護・維持・管理する人、地域を住環境として生活する人々など

また、地域人材・人の営みは、図1のように、地域の関係機関や地域に在住する人々のネットワーク化が形成されている。

IV 地域環境の題材化について

児童作品を最寄りの駅や商店街に展示したり、地域の神社等でスケッチしたりするなど、表現・鑑賞活動の場としての地域環境を一時的に利用することなどは、地域環境の利用であって題材化にはなっていない。学生には、地域環境を生かした表現及び鑑賞の活動を通して、子どもたちの造形的な能力を育むとともに、地域に共感し、地域を探求し、地域を創造することに繋がる学習活動にすることまでを含めて題材化と捉えさせたい。したがって指導案を作成するに当たっては、地域環境のどのような環境とつなぎ、どのような学習展開にして、どのような子どもたちの「気づき」を期待するのかという地域学習のねらいが明確に示されなければならない。図2に示すように子どもたちの自主的な学習展開や学習内容・学習環境を構造化することが必要である。

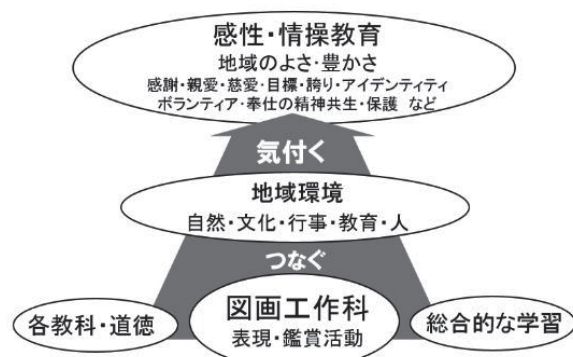


図2 地域環境と「つなぐ」「気付く」学び

自然環境にしても施設環境・人的環境を取り上げるにしても、造形活動を通して子どもたちが「地域にこんなすごい技をもった職人さんがいたのか。(共感)」「どうすれば、あんな美しい作品ができるのだろうか、不思議だ。(探求)」「私は大人になって職人になる。この町の伝統工芸を発展させたい。(創造)」という思いをはぐくむ授業であってほしい。図画工作科の総授業時間数は中学年で10時間、高学年で20時間減少している現状を考えると、子どもたちと地域環境をつなぎ、共感・探求・創造する学びを充実させるためには道徳や総合的な学習の時間、他の教科等との関連も必要になる。

子どもたちが改めて地域の人々の営みをじっくりと観ることや、地域の公民館や地域の公共施設、博物館や美



図3 地域環境を生かした題材化の構造

術館等の主事や学芸員，美術家や工芸家等の存在を知ることが必要である。本授業を通して，地域を生かした学習環境づくりの必要性に気づき，地域環境とつなぐ図画工作科の題材化は，地域の活性化や地域と学校との信頼関係の構築にも寄与することを学生に気付かせたい。

V 地域環境を生かした題材化の授業実践

1. 授業実践の対象者

大学教育学部の小学校教員免許取得希望者を対象とした図画工作科教育法Ⅰの受講者で，本年度，小学校教育実習に行く予定の教育学部3年生136名である。本授業では，受講した136名全員に教育実習で予想される担当学年の図画工作科の学習指導案を作成させた。

2. 授業実践の内容

授業は次のような内容・手順で実施した。

- (1) 1回目の授業では何の教示もせず，過去の児童画コンクール等の特選・入選作品6点の鑑賞・評価活動並びに図画工作科授業DVDの視聴を通して子どもの絵の見方，図画工作科の指導に関する気づきを記録させた。2回目は学生の気づきの記録と指導要領の教科目標にある「感性を働かせながら」「豊かな情操を養う」という言葉をつなぎ，図画工作科教育のねらいについて解説した。そして3回目，指導要領の文言と図画工作科の低学年・中学年・高学年の教科書の内容から「A表現」「B鑑賞」の内容について解説した。
- (2) 4～6回目は，指導要領，教科書，学生自身の子どもの時代の地域環境の記憶や実習校・市町村ホームページ，家族等からの情報等を手掛かりにして題材化に選

定した地域環境のプレゼン資料の作成，グループ内での教材化案の説明と相互評価を行わせた。4・5回目の地域環境の調査・選定に当たっては，学生自身が他の学生に自慢できる地域のひと・もの・ことという視点に囚われないこと，子どもたちにとって新たな発見や出会いになるような地域環境を探すことを強調した。6回目のプレゼン資料による説明では「つなぐ」「気づく」「身に付ける」を使うことを条件とした。

- (3) 7～10回目では，6回目のグループによる協同学習を生かし図画工作科学習指導案（題材名・題材設定の理由・題材のねらい・指導計画・本時目標・学習展開）を作成，9回目に改善したプレゼン資料と指導案による協同学習，10回目に各自最終的な改善を行った。7・8回目の指導案作成に当たっては次のことを指導した。指導事項としては，①子どもたちと「つなぐ」地域環境に地域住民や地域産業を支える職人や技術者など身近な地域の人々の営み等に視点を向けること。②題材名及び学習活動を観ることで，子どもたちが自主的に地域環境にかかわり，共感的・探求的・創造的な「気づき」になる学びであることが分かるように工夫すること。配慮事項は，①作成した学習活動プランが，学級・学年単位で実践可能であること。②学校外を学びとする場合の移動時間を含めた指導計画や安全指導，安全管理の方法等についての記述があること。9・10回目の授業は，各指導案を指導事項①②③，配慮事項①②の観点から協議をし，全体発表案の決定と，協同して提案プレゼン資料，指導案の加筆修正を行わせた。

- (4) 11～14回目は，1回の授業で4グループから順次提案を発表させ，全員に評価コメント（自由記述）を書かせ，次回の授業の初めに，前回回収した評価コメントの学生の気づきの内容別に整理した資料を配付し，読む時間を設けて学生相互の気づきを共有した。15回目は，11～14回目の学生コメントをまとめた資料と初回に配布したシラバスを提示し，教科研究や校内の授業研究において，協同学習が授業研究の充実と学校の組織化・活性化につながることを説明した。この授業で作成した受講者136名の指導案は共有データにして受講者全員に成果物として配付した。

授業全体では，授業研究における，題材化の構想作成，グループでの検討，指導素案作成，グループでの事前協議，指導案作成，全体協議という段階を踏んだ。学生に事前協議を充実させることが授業改善や授業研究の進め方として適していること，創造的・協同的な学校文化，経営参画意識をもった人材の育成につながることを説明した。

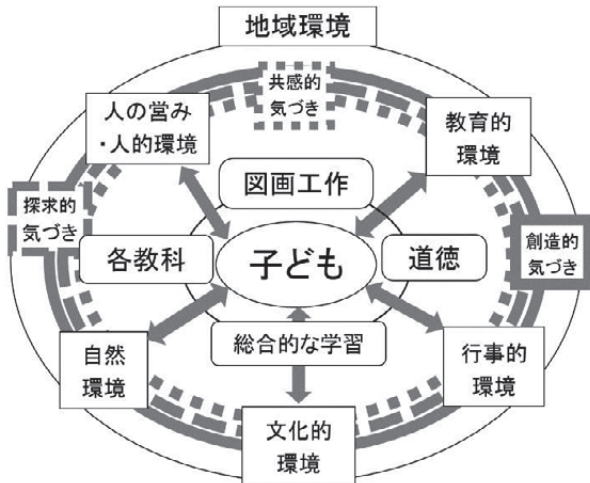


図4 地域環境と各教科等との関連

VI 授業実践の結果

実践の結果として提示するものは、①受講者136人の学生が作成した学習指導案を整理したもの、②学生が11～14回目の授業で書いたコメントの中の気づき、③15回目の授業で行った意識調査結果である。

1. 指導案の題材名と学習内容の分類

4回目から10回目の授業で作成した図画工作科の指導案を、「つなぐ」具体的な地域環境の内容と分類、指導案に基づく実践を通した子どもたちの「気づき」の内容、地域を生かした主体的な学びをイメージできる題材名の工夫について整理し、表1に提示した。

教育実習校の校内の自然・施設環境を含めた地域環境を題材化した学生は、指導案の題材設定の理由や題材名等から136名中、132名(97.1%)であった。地域環境を生かした指導案を作成しなかった学生4名(2.9%)の内2名は実習校が出身校ではない、他の2名は「何もない地域」という理由である。132名の学生の中にも当初は「何もない地域」という発言していた者もいたが、6回目の地域プレゼン資料によるグループでの相互説明による学び合い後は「つなぐ」地域環境に対する視点が広がり、指導案作成段階での地域に対する否定的な発言はほとんど聞かなくなった。132名中、子どもたちと「つなぐ」地域環境として選んだ環境で多かったのは、自然環境の43名(32.6%)で、次が文化的環境の32名(24.2%)、行事的環境の24名(18.0%)であった。授業の中で地域環境を探る方法として特に指示をしていなかったため、多くの学生が地域環境を探る方法として現在の地域情報等を検索し、地域の自慢や誇りとして発信、紹介されているものの中から選んでいた。地域の観光情報や美しい写真・映像等の影響が大きく、佐賀県の小学校で教育実習をする学生3名がバルーンフェスタを地域

環境として取り上げている。自然環境、文化的環境、行事的環境を題材化した学生が99名(75.0%)になったのはそのためである。これに対し、教育的環境は19名(14.4%)、地域の人材や人々の営みに視点を当てた学生14名(10.6%)と少なかったが、学生自身の体験に基づくものが多く、グループでの評価を受け全体提案者に選ばれた者が多い。

題材名は、グループでの相互提案、全体発表・評価という協同学習の過程で各自変更している。学校名や地域名、神社名や行事名等をそのまま使った学生が53名(40.2%)、「自慢の…」「伝えよう…」「盛り上げよう…」等の表現をしている学生が25名(18.9%)おり、過半数の学生が題材名にも意識をもっていることが読み取れた。また、「気づき」の内容については、98名(74.2%)の学生が郷土愛をはぐくむ共感的な学びを構想し、地域の歴史や文化への探求的な学びを構想した学生が20名(15.2%)、地域環境を守り、未来を創る創造的な学びを構想した学生が14名(10.6%)であった。

2. 全体提案に対する評価コメントに記載された内容

11回目から14回までの4回の授業で、各グループから推薦された題材指導案の発表に対して、発表者の指導案に込めた「つなぐ」・「気付く」内容のよさ(肯定)と、私だったら(改善)という視点でコメントを書かせた。その一部を抜粋し提示する。

- ①：1年題材「あたらしいなかまをつくろう！」：学生A【自然・文化的】・「あたらしいなかまをつくろう」という題材名は、まだクラスになじめない子どもが話す機会にもなり1年生の題材名としてとてもいいと思う(肯定)・題材の導入で「あかりとちゃっぼんぼん」というお祭りについて知っていることを学び合う時間を設け、地域への関心を高めたい(改善)・せっかくお祭りを題材にしているのだから、みんなが作った作品をお祭りのように飾り、生活科などに関連させてお祭りを行うこともできるのではないか(改善)。
- ②：2年題材「わくわく、ともだちハウス」：学生B【自然】・「ともだち」をキーワードにして協力する活動があり良い題材だと思った。提案を聞いた私がワクワクするので子どもたちも楽しんで活動するのではないか(肯定)・小さな友だちのプロフィールを書くことでイメージが具体的になり、その後の表現活動にもつなげやすく、具体的な「友だち」が作れそうだと感じた(肯定)・学校の楠の木にたくさん触れて木への愛情も深まるだろうしハウスと小さな友だち(作品)を使って短い劇にするなど、国語の授業などにつなげよう(改善)。

表1 指導案題材名と「つなぐ」対象,「気づき」の内容

| No. | 学年 | 共感・探求・創造する学びをつくる題材名 | 「つなぐ」具体的な内容(環境分類) | 「気づき」の内容 |
|-----|----|----------------------------|-----------------------|------------------|
| 1 | 1 | あたらしいなまをつくろう | 地域の自然材 | 自然 自然の形・場所 共感 |
| 2 | 1 | ペタペタどろあそび | 学校の近くの田んぼ | 自然 自然の魅力・命 共感 |
| 3 | 2 | わたしのカッパ | 北波多に残っているかっぱ伝説 | 自然 自然との共生 共感 |
| 4 | 2 | 太ようの光さしこむ2組作ひんかんを作ろう | 地域の人々の存在や通学路や近くの公園 | 自然 人とのつながり 共感 |
| 5 | 2 | 池田祭りのちょうちんをつくろう | 展望台からの景色(景観法) 環境保全 | 自然 自然の大切さ 共感 |
| 6 | 2 | うみとなかよし | 地域の自然材 玄界灘・立花山 | 自然 豊かな自然 共感 |
| 7 | 2 | イチョウがへんしん | 校門まえの通学路の大イチョウ | 自然 自然の色・季節 共感 |
| 8 | 2 | 世界に一つだけの押し花カードを作ろう | 上天草市立今津小学校の近くの野原 | 自然 季節の動植物 共感 |
| 9 | 2 | いざ、ジャングルへ | 学校周辺の川辺や森 | 自然 自然の魅力・命 探求 |
| 10 | 2 | わくわく、ともだちハウス | 本校のシンボルであるくすのき | 自然 木の命・木の思い 共感 |
| 11 | 2 | ホワホワ輝くわたしの灯籠 | 紅葉期の観光地である自然 | 自然 美しい自然の色 共感 |
| 12 | 3 | わたしたちの森の芸術作品展 | 地域の自然材 | 自然 自然材の色・形 共感 |
| 13 | 3 | 春を楽しもう くるくるめいろ | 隣の神社の藤まつり | 自然 自然の色 自慢 共感 |
| 14 | 3 | わたしのぼうし | 近くの公園 | 自然 自然の色・形・命 共感 |
| 15 | 3 | 世界に一つだけのぼく・わたしのペン | 宗像市の市の木でもあるクスノキの木 | 自然 木の命・町の歴史 共感 |
| 16 | 3 | 松林ですみか作り | 大きな松林がある大在舞子浜緑地 | 自然 自然環境の保全 共感 |
| 17 | 3 | 道をたずさずピカピカランプ | 七月の蛍が見える場所に行くまでの道 | 自然 自然への感謝・美化 創造 |
| 18 | 3 | わたしたちのワクワクすみか | 学校周辺にある木々や葉っぱなどの自然物 | 自然 自然との共生 共感 |
| 19 | 3 | ぼく、わたしたちのひまわり畑 | 南島原市の「市の花」であるひまわり畑 | 自然 豊かな自然 共感 |
| 20 | 3 | 見つけよう ぼくのわたしの木 | 校庭・学校周辺の自然 | 自然 自然材の色・形 共感 |
| 21 | 3 | わくわく発見! 五ヶ瀬川 | 延岡の水質No.1の川岸の石 | 自然 恵まれた自然 共感 |
| 22 | 3 | 3年2組のカラフルロード | 指宿温泉, 鑑賞として知林ヶ島の砂の道 | 自然 環境美化 創造 |
| 23 | 3 | 自然のなかで遊ぼう | 学校周辺の自然 | 自然 自然の色・形・季節 共感 |
| 24 | 3 | 未来のツリーハウスを建てよう | 地元の自然, 裏山や近くの海岸 | 自然 幼児の遊び場づくり 創造 |
| 25 | 4 | ぼく、わたしの木 | 地域の遺産でもある宇美八幡宮のくすのき | 自然 木の命・建物の美 共感 |
| 26 | 4 | ぼく・わたしのおすすめはこれだ | 地域の自然公園 | 自然 自然材の色・形 共感 |
| 27 | 4 | 秋の森のひみつきち | 愛宕神社の自然材 | 自然 自然材の色・形・季節 共感 |
| 28 | 4 | フォレストワールド「森の芸術家」 | 学校周辺の自然 | 自然 自然の造形美 創造 |
| 29 | 4 | 森のげいじゅつか | 近くの森林 | 自然 自然材の色・形 共感 |
| 30 | 4 | 生の松原美術館 | 生の松原の落ち葉や松ぼっくりなどの自然材 | 自然 自然材の色・形 共感 |
| 31 | 4 | 自然いっぱい〇〇ワールド | 学校周辺の自然 | 自然 自然環境の保全 共感 |
| 32 | 4 | みてみて! ぼくのわたしのすみか | 高取小周辺「やすらぎの森」「せせらぎの川」 | 自然 自然との共生 共感 |
| 33 | 5 | かくれんぼさんを探せ! | 学校目の前の神社 | 自然 自然の形・建物の形 共感 |
| 34 | 5 | 世界に一つだけの光を灯そう御船山楽園ライトアップ | 歓迎遠足 御船山楽園 | 自然 自然の色・形, 自慢 共感 |
| 35 | 5 | 布と枝のコンサート~世界にひとつだけの木~ | 地域の松林・自然材 和白干潟・松林・公園 | 自然 豊かな自然美・命 共感 |
| 36 | 5 | いのちをえがこう | 地域に住む生き物 | 自然 自然の魅力・命 共感 |
| 37 | 5 | 僕の、私の自慢の町 | 学校の近くの和白干潟 | 自然 命を育む自然環境 共感 |
| 38 | 5 | 自然のキャンパスに描こう | 近くの自然 | 自然 豊かな自然への感謝 共感 |
| 39 | 5 | 光のホタルかごアート展を開こう | 地域の伝統的な「ほたるかご」 | 自然 豊かな自然・保護 共感 |
| 40 | 5 | 世界に一つだけの石 | 矢部川の石 | 自然 豊かな自然への感謝 共感 |
| 41 | 5 | 作ろうよみんなの秘密基地 | 学校の裏山 | 自然 自然環境のよさ 共感 |
| 42 | 6 | 私のつつじ染め | 基山で有名な花であるつつじ | 自然 自然環境を育む人々 共感 |
| 43 | 6 | わたしの春 | 金山川とその桜並木道 | 自然 自然への感謝と保護 共感 |
| 44 | 1 | ふわふわさげもんづくり | 柳川名物の「さげもん」 | 文化 郷土愛・自慢 共感 |
| 45 | 1 | つくってみたいな、わたしのおしろ | かつて城があったことを伝える八代城跡 | 文化 郷土愛 町の歴史 共感 |
| 46 | 1 | みんなでたのしくモアイをつくろう | 宮崎の観光地となっている「モアイ」 | 文化 わが町の自慢 共感 |
| 47 | 2 | ようこそ2の2バルーンフェスタへ | 佐賀バルーンフェスタ | 文化 県の自慢 共感 |
| 48 | 2 | うっとりするねランランランプ | 地域の自然材 | 文化 和の光の魅力 共感 |
| 49 | 3 | 若宮八幡宮ですみかをつくろう | 美的・造形的な財産として「若宮八幡宮」 | 文化 町の自慢・歴史 共感 |
| 50 | 3 | かすりのアート | 筑後の伝統工芸である「緋」 | 文化 町の自慢・和の色 共感 |
| 51 | 3 | オリジナルきじうま・花手箱をつくろう | 伝統工芸 きじうま・花手箱 | 文化 郷土愛・工芸品 共感 |
| 52 | 3 | 東宮永小学校 さげもんまつり | 柳川の特産物さげもん | 文化 郷土の美・自慢 共感 |
| 53 | 3 | ゆかいな汽車の仲間たち | 学校近くの三瀧のシンボル「ぼっぱ汽車」 | 文化 町の自慢・歴史 探求 |
| 54 | 3 | 大珪化木とタイムスリップ! | 国指定天然記念物「夜宮の大珪化木」 | 文化 自慢・日本の歴史 探求 |
| 55 | 4 | 宇佐神宮の自然をみつめて | 国宝や重要文化財等の建造物, 宇佐神宮 | 文化 自慢・建造物の美 共感 |
| 56 | 4 | キラキラ有田焼職人になろう | 有田焼・伝統工芸 | 文化 自慢・焼き物の町 探求 |
| 57 | 4 | 色と水の自分の紬 | 大島紬という身近な伝統工芸品 | 文化 郷土愛・紬 共感 |
| 58 | 4 | 上陽っ子オリジナル灯籠をつくろう | 八女市の伝統工芸品である和紙や灯籠 | 文化 和紙と光の美しさ 共感 |
| 59 | 4 | 版画を通して新たな発見をしよう | 通学路の神社・寺などの歴史ある建物 | 文化 町の形・再発見 探求 |
| 60 | 4 | 金魚ちょうちんをつくろう | 山口県の伝統的工芸品「金魚ちょうちん」 | 文化 自慢・伝統技術 共感 |
| 61 | 4 | 城下かえいを学校に泳がせよう | 日出町伝統工芸品「日出焼」 | 文化 伝統技術の継承 探求 |
| 62 | 4 | 私だけの大島紬~オリジナルの柄をつくろう~ | 大島紬という奄美大島の伝統織物の柄 | 文化 伝統の柄・新しい柄 創造 |
| 63 | 4 | 私たちだけの未来の町を作ってみよう | 地元の名所である「昭和の町」 | 文化 町の自慢・温もり 共感 |
| 64 | 5 | 世界に一つだけのほにわ | 筑前町仙道古墳の埴輪 | 文化 町の歴史・環境保護 共感 |
| 65 | 5 | 見つけた お気に入りの場所 | 深江神社 | 文化 町の自慢・歴史 共感 |
| 66 | 5 | みんなで作ろう! 世界にひとつだけの5の1さげもん! | 柳川伝統工芸品「さげもん」 | 文化 自慢・伝統工芸 共感 |

| No. | 学年 | 共感・探求・創造する学びをつくる題材名 | 「つなぐ」具体的な内容（環境分類） | 「気づき」の内容 |
|-----|----|----------------------|-------------------------|------------------|
| 67 | 5 | いざ！弓野人形をつくらん！ | 西川登町の伝統的な人形づくり | 文化 自慢・伝統工芸 共感 |
| 68 | 5 | かがやけ壱坑！ | 志免炭鉱壱坑櫓の年末年始のライトアップ | 文化 町の産業の歴史 探求 |
| 69 | 5 | 海を守ってほしーサー | 沖縄の伝統的な文化 シーサー | 文化 島の工芸の歴史・技 探求 |
| 70 | 6 | 和紙から作ろう！ オリジナル提灯 | 八女の伝統工芸, 和紙作り | 文化 和紙の魅力 探求 |
| 71 | 6 | ぼくもわたしも家具職人 | 大川木工まつり | 文化 自慢・木工の技・美 共感 |
| 72 | 6 | ぼくわたしの！ 上野焼 | 伝統工芸品の上野焼 | 文化 自慢・焼き物の町 共感 |
| 73 | 6 | わたしだけのタイムスリップ物語 | 学校の近くの史跡 | 文化 町の歴史 探求 |
| 74 | 6 | 伊万里焼に挑戦 | 伊万里で有名な伊万里焼 | 文化 自慢・焼き物の町 探求 |
| 75 | 6 | 陶芸家への道～伊万里焼～ | 佐賀・伊万里の一番の特産品 | 文化 自慢・焼き物の町 探求 |
| 76 | 2 | お面を作ろう～元岡獅子舞～ | 元岡校区の伝統「元岡獅子舞」 | 行事 郷土の文化・歴史 共感 |
| 77 | 2 | みざれ太こ がっきたい | みざれ太鼓 | 行事 郷土文化の継承 共感 |
| 78 | 3 | ぼくのわたしのワクワクお面 | ひよっとこ踊り | 行事 郷土文化の継承 共感 |
| 79 | 4 | おいでよ！ わたし達の花火大会 | 総本宮水天宮の筑後川花火 | 行事 郷土の自慢 共感 |
| 80 | 4 | My 灯籠をつくろう | 山鹿灯籠祭の「千人灯籠」踊りの灯籠 | 行事 自慢・郷土の文化 共感 |
| 81 | 4 | つくろう！ 私のバルーン | 佐賀バルーンフェスタ | 行事 郷土の自慢・郷土愛 共感 |
| 82 | 4 | 私たちのあかり | 地域の夏祭り | 行事 文化の継承 共感 |
| 83 | 5 | 水のめぐみに感謝して～竹灯籠作り～ | 島原市の水に感謝するお祭り | 行事 豊かな自然環境 共感 |
| 84 | 5 | よいさー！ わたしたちの大蛇山 | 地域での伝統的な祭りである大蛇山の御輿 | 行事 自慢・文化の継承 共感 |
| 85 | 5 | わっしょい！ おみこし職人！ | 田主丸町夏の町民祭りのおみこしの飾り | 行事 自慢・文化の継承 共感 |
| 86 | 5 | 風にたなびくこのぼりをたてよう | 飯塚市, 川治いのこのぼり | 行事 温もりのある環境 共感 |
| 87 | 5 | 5年2組のバルーンフェスタ | 佐賀で行われるバルーンフェスタ | 行事 郷土愛・文化の継承 共感 |
| 88 | 5 | 作ろう・踊ろう・飾ろう, わたしのお面 | 佐賀県太良町秋祭りの「面浮立」伝統芸能 | 行事 郷土愛・文化の継承 共感 |
| 89 | 5 | 岩戸神楽をもらあげよう | 歴史的な文化遺産である「岩戸神楽」 | 行事 郷土愛・文化の継承 共感 |
| 90 | 5 | 私の頭の中の獅子爪岩 | 校区に伝わる話「獅子爪岩」 | 行事 郷土愛・美しい自然 探求 |
| 91 | 5 | 盛り上げよう！ 私たちのちょうちん祭 | 提灯祭り・桜や蛍の時期の一の坂川 | 行事 郷土愛・自然環境 共感 |
| 92 | 6 | ぼくだけの・わたしだけの15番目の曳山 | 唐津曳山 | 行事 文化の継承・発展 創造 |
| 93 | 6 | 墨で描く神楽の世界 | 折尾の特色である折尾神楽 | 行事 文化の継承・発展 創造 |
| 94 | 6 | 竹と光のハーモニー～龍神伝説 三池光竹～ | 11月20日, 21日の「龍神伝説 三池光竹」 | 行事 郷土愛・文化の継承 共感 |
| 95 | 6 | 伝えよう, 泰平踊り | 飢肥城下祭り地域の伝統的な「泰平踊り」 | 行事 郷土愛・文化の継承 共感 |
| 96 | 6 | 自分だけの光の形 | 大牟田 三池光竹という伝統行事 | 行事 郷土愛・文化の継承 共感 |
| 97 | 6 | 作ろう！ 私たちの卒業アルバム | 町の新たなイベントを地元の新聞社に提案 | 行事 郷土の自慢 創造 |
| 98 | 6 | イチから作ろう！ オリジナル竹とうろう | 水前寺公園で行われる「水あかり」お祭り | 行事 地域復興応援 創造 |
| 99 | 6 | 「出航」夜空に輝けわたしの船 | 観月会の会場である天拝公園 | 行事 郷土愛・自然保護 共感 |
| 100 | 1 | のってみたいな・いってみたいな | 西鉄電車や新幹線 | 教育 郷土への興味関心 共感 |
| 101 | 1 | ひびけ わたしだけのおと | 校区の幼稚園や保育所 | 教育 郷土愛・共生 共感 |
| 102 | 3 | 昭二の森の家具屋さん | 学校の敷地内にある「昭二の森」 | 教育 郷土愛・豊かな自然 共感 |
| 103 | 3 | わたしだけの春住アートをつくろう | 春住校区の一番大きな山王公園 | 教育 郷土愛・豊かな環境 共感 |
| 104 | 3 | のぞいてみよう, 北明小の三角屋根 | 町の目印, 小学校校舎の三角屋根 | 教育 郷土愛・豊かな環境 共感 |
| 105 | 4 | ぼく・わたしたちの香椎浜 | 香椎浜校区 | 教育 郷土愛・豊かな環境 共感 |
| 106 | 4 | 私たちの未来の町を作ろう | 教師が地域施策をして撮った地域写真 | 教育 環境への感謝・発展 創造 |
| 107 | 4 | ぼくの木, わたしの木 | 学校内の木 | 教育 温もりのある環境 共感 |
| 108 | 4 | ぼくたち 私たちの福岡空港をつくろう | 自分たちの福岡空港 | 教育 自慢・豊かな環境 共感 |
| 109 | 4 | なぞの！？ うちゅうななようせいせい | 「宇宙7曜星の精」が置いてある太陽の塔 | 教育 自慢・豊かな環境 探求 |
| 110 | 5 | わくわくどきどき川添サファリパーク | 地域の施設 | 教育 自慢・自然環境 共感 |
| 111 | 5 | スタンドグラスDE動植物園 | 福岡市動植物園 | 教育 豊かな生活環境 共感 |
| 112 | 5 | みんなで作ろう！ 私たちの勝盛公園 | 遠足などで利用する機会が多い勝盛公園 | 教育 自慢・自然環境 共感 |
| 113 | 5 | 私だけの世界をつくろう | 本校にあるジオトープ | 教育 自然環境保護・共生 創造 |
| 114 | 5 | 灯してみよう 平和の光 | 長崎県 8月9日に行われる平和集会 | 教育 世界の平和 創造 |
| 115 | 5 | 段ボールを使って, 鳥を作ろう | 福岡市動物園で観察した鳥 | 教育 豊かな環境・共生 共感 |
| 116 | 6 | ぼくとわたしの大切な学校 | 改装前の校舎写真, 改装以前の学校生活 | 教育 郷土愛・豊かな環境 共感 |
| 117 | 6 | せんだんの木～自分だけの春夏秋冬～ | 学校の運動場の中心に立つせんだんの木 | 教育 郷土・母校への感謝 共感 |
| 118 | 6 | 多色木版の世界～心に思い描く若戸大橋～ | 子どもたちにも馴染みのある若戸大橋 | 教育 生活環境への感謝 共感 |
| 119 | 3 | あったらいいな どこでもドア | 地域「挨拶通り」高齢者・保護者・地域 | 営み 豊かな環境への感謝 共感 |
| 120 | 3 | キラキラアワビの小物入れ | 大島アワビの養殖施設・馴染み深い貝 | 営み 郷土愛・豊かな暮らし 共感 |
| 121 | 4 | ホテルの夜のファンタジー | 学校近くの川で行うホテルの放流活動 | 営み 自然環境の保護 創造 |
| 122 | 4 | わらと友達になろう | 米作りで残る藁 | 営み 郷土愛・豊かな環境 共感 |
| 123 | 4 | えだひも ぎゅぎゅっと | 植木の町 | 営み 郷土愛・豊かな環境 共感 |
| 124 | 4 | 世界に一つの合鴨小屋を作ろう | 地域の合鴨農法 | 営み 豊かな環境・保護 探求 |
| 125 | 4 | ランタンを作ろう | 熊本地震による被災地 | 営み 地域復興応援 創造 |
| 126 | 4 | わたしだけのピカピカホテル | 近くの川と自然保護活動の人々 | 営み 自然環境の保護 共感 |
| 127 | 5 | わたしたちの大切な場所 | 通学路の風景 | 営み つながるよさ 共感 |
| 128 | 5 | わたしの大切な風景 | 野多目小周りの風景 九州がんセンター | 営み 命の大切さ 共感 |
| 129 | 5 | 私だけのランプシェードを作ろう | 地域の風景と「つつじマーチ」 | 営み 郷土の豊かな自然 共感 |
| 130 | 5 | かかしファッションショー | 郷土である白石町の農業 | 営み 自慢・農業という仕事 共感 |
| 131 | 6 | 私たちの町へようこそ | 地域の商店街 | 営み つながる温かさ 共感 |
| 132 | 6 | 巨峰と墨で墨絵を描こう | 鞍手町の特産品である「巨峰」 | 営み 自慢・地域の産物 共感 |

表2 アンケート集計結果

| 質問内容 | 母校である | 母校ではない |
|----------------------|-------|--------|
| 1: 教育実習校は、あなたの母校ですか。 | 127 | 9 |

| 質問内容 | 住みたい | できれば住みたい | どうでもいい | できれば住みたくない | 住みたくない |
|---|------|----------|--------|------------|--------|
| 2: あなたが小学6年生の頃、大人になっても自分の住んでいる地域に住みたいと思っていましたか。 | 51 | 29 | 24 | 24 | 8 |
| 3: 本授業を受ける以前のあなたは、自分の母校地域へどう思うっていましたか。 | 48 | 40 | 28 | 16 | 4 |
| 4: 授業で実習校地域の「ひと・もの・こと」と子どもたちをつなぐ指導案の作成や学び合いをした今、あなたの母校地域への思いはどうか。 | 74 | 46 | 9 | 5 | 2 |

| 質問内容 | 変わる | 変わらない |
|---|-----|-------|
| 5: 1年生から系統的に地域素材を生かした図工の題材を作成し実践することで、子どもたちの地域への思いは変わると感じますか。 | 133 | 3 |

表3 図画工作科の指導のあり方等について（振り返りシートに自由記述）

| No. | 記 述 内 容 | 気づき |
|-----|---|----------|
| 1 | ・私達が一生懸命取り組み、子どもはその思いに応じてくれる上に、私達の背中を見て、心の優しい子であったり、不器用でも頑張ることが出来る子どもがきつと育つと思った。 | 教師の眼差し |
| 2 | ・日頃、あまり目立たない子が輝ける場を作り出すのも図工の面白さのなかなと思います。子ども一人一人が輝ける場面を作り出す…これが図画工作科のあるべき姿だと私は思います。 | 教師の眼差し |
| 3 | ・一人ずつの発表で思いが伝わったからこそ、良いところ真似したいところをたくさん見つけようという意識でのぞむことができ他の授業の時にもこういう意識を持って本当に良かった。実習校について調べるきっかけになったので良かった。 | 教師の眼差し |
| 4 | ・授業は一人ずつつくっていくものではなく様々な考えの人の意見を取り入れながらつくっていくことの大切さを学ぶことが出来ました。授業も同じだと思います。様々な視点から子どものためになる良い授業をつくれるようになりたいです。 | 協同学習の価値 |
| 5 | ・自分自身の指導案についてクラスの皆から様々な意見をもらうことで新たなアイデアを得ることができたのでさらに指導案を改善し、より良い授業を作りたいと思いました。 | 協同学習の価値 |
| 6 | ・発表を聞いて○○さんのこういうところが見つけることに重点を置くようになったら自然と笑顔で発表を聞けるようになりました。課題ばかりではなく良さに視点を向けることで学ぶ意識は変わるんだと感じました。 | 協同学習の価値 |
| 7 | ・提案者の発表を聴く時には良いところをたくさん吸収しようという思いで取り組みました。皆の発表を聴くことで、視野が広がり、自分の中にたくさん引き出しが出来ました。 | 協同学習の価値 |
| 8 | ・私が一生懸命この授業に参加することができたのは、このクラスみんなの学ぼうという意識の高さのおかげでもあり、何よりもグループのみんなのおかげだと思っています。まずは教育実習に生かせるように、さらに深めていこうと思います。 | 協同学習の価値 |
| 9 | ・苦手だった図画工作の授業をここまで一生懸命に取り組んだのは初めてだ。一生懸命考え感じることで、こんなにわくわくすることができるなんて思ってもいなかった。クラスみんなが熱意を持って意見を書いているのが伝わってきた。 | 協同学習の価値 |
| 10 | ・友達の作品の良いところを見つけることは、人の良いところに気づくことと同じだと思った。子ども達が作品の良いところを見つけていく中で、人の良いところにも気づくことができるような「目」を育てることができるような教師になりたい。 | 情操を養う指導 |
| 11 | ・子どもの作品の一つ一つを「宝物」として大切にほめてあげられるような、素敵な先生になりたいし、「自分と向き合う」教科である図工の時間にしか教えることのできないたくさんのお話を教えていけたらいいと思う。 | 情操を養う指導 |
| 12 | ・地域の人や物、自然、他教科、他学年、伝統など図工という教科はたくさんのお話とつながりを持つ教科であることを知り、視野を広げられるように色々な事につなげながら授業づくりをしなればよかったと思うようになった。 | 情操を養う指導 |
| 13 | ・児童を愛するということはその地域や周りの人々も愛することが大事なのではないかと考えた。きっとその地域を知ることができ、児童達を愛することができていれば、どんな教材の提供も失敗になることはなく、必ず収穫があると思う。 | 情操を養う指導 |
| 14 | ・題材に合わせた鑑賞の場を用意して子ども達の中から達成感や連帯感を生み出せるような働きかけが必要だと思います。図画工作科は、とても奥の深い教科で、子ども達の内面を引き出せる素晴らしいものだと思います。 | 情操を養う指導 |
| 15 | ・図工は他教科や地域とのつながり、生活に生かそうとする心など授業以外で育てることができる教科だと思いました。子どもたちの成長のために教師が工夫をしてたくさんのお話をさせてあげられるように指導をしたいです。 | 情操を養う指導 |
| 16 | ・児童が込めた気持ちという視点を自分は全く持っていなかったで、目から鱗で少し泣きそうになりました。児童の作品には作品の数だけ、それぞれ違った良さがあり、些細な事でもそれに気づけるような先生になりたいと思いました。 | 児童の表現の見方 |
| 17 | ・教師は子ども達の自由な思いや発想を受けとめる寛大な心を持つ必要があると思います。子ども達の気持ちを受けとめ、それをつないだ図工の授業ができるように学生の今、様々なことに興味・関心を持ち感性を高めたいです。 | 児童の表現の見方 |
| 18 | ・教師はその作品に込められた子どもの思いを受け取らなくてはならない。そのためには教師自身の感性を磨いていく必要があるだろう。自分が教師になったら図工が嫌いと思われないような感じさせないような授業をしたい。 | 児童の表現の見方 |
| 19 | ・上手下手にこだわらず、子どもが自由に思ったことを表現した作品、またその過程を評価して、一人一人の工夫や良さに気づくことができるのが図工の指導において大切なことだと考えます。 | 児童の表現の見方 |
| 20 | ・題材選びは作品制作のおもしろさだけでなく、題材を通して気づかせたいこと・感じてほしいこと・学んでほしいことなどの視点をもつ必要があることを学びました。教師は鑑賞の場の設定や様々な工夫をすることが大切だと思いました。 | 題材開発 |
| 21 | ・私は図工が嫌いだったけど、今回提案してくれたような授業であれば苦手意識を持たなかったと思います。図工が好きの子はもっと好きに、苦手な子でも楽しいと思ってもらえるような楽しい深みのある授業ができる先生になりたいです。 | 題材開発 |
| 22 | ・教師がこっちの方がやりやすいからこういう風にしていこうという考えではなく、こうしたら子どもたちは意欲的に最後まで取り組んでくれるだろうという子どもが実際にそれを行うという立場になって授業を計画していくことが重要だと思う。 | 題材開発 |
| 23 | ・教師が思うような「何か」よりも、子ども達が考え、創り出した「何か」の方がより価値のあるものだと思うし、そのための支援のために教師は努力すべきだと思います。 | 題材開発 |
| 24 | ・初めて一人で指導案を作る際、不安でいっぱいでも仕方がなかったが、いざ伝えたいことを見つけると指導案作りに熱中してしまい、初めて授業を作ることが楽しいと思うことが出来た。 | 題材開発 |

- ③：3年題材「大珪化木とタイムスリップ」：学生C【自然・文化的】・はじめに、木が何万年も前に生きていたという壮大さ、神秘さを想像させておく手立てが良かったと思う。「タイムスリップ」という題材名もいい（肯定）。・6年生になった歴史の学習の時間に作品の写真などを振り返り、子どもたちが（あのとき）を思い出す、数年後の学びにつながる題材である（肯定）。・「大珪化木」のイメージが3年生にはもちにくい（言葉の難しさ）。紙芝居などを使っては。国語で「大珪化木新聞」などをグループで作成させるのもいいと思う（改善）。
- ④：4年題材「私だけの大島紬」：学生D【文化的】・大島紬という柄を初めて見たが、非常に「和」が感じられ、大島紬の伝統を大切にすることは日本の伝統工芸を大切にすることにつながると思った（肯定）。・郷土愛や伝統工芸品のよさを再確認するという提案をしているDさんがとても優しい表情をしていたのできっと心から地域のことが好きなんだろうなど感じた（肯定）。・ブックカバーを作る活動もいいが、私だったら家庭科とつなげて、エプロンや簡単な服を作らせても面白いのでは。この題材は5・6年題材にしてもいい（改善）。
- ⑤：4年題材「My 灯籠をつくろう」：学生E【行事的・文化的】・紙の素材の持つ強さ・美しさに気付いたり、幻想的な光の美しさ・地域で守り受け継がれてきた祭りの美しさに気付いたり、自分が受けた授業だ（肯定）。・「My」と題名にあるので外国の人に向けて子どもたちが地域の祭りをPRするという総合的な学習とつないでも面白いのではないかと（改善）。・山鹿灯籠づくりの職人さんをG・Tとして招き、技術の伝承や伝統行事（祭り）の担い手として地域の大切な伝統をつなぐ意識を育てる場にしたい（改善）。
- ⑥：5年題材「海を守ってほシーサー」：学生F【文化的・自然】・自分の住んでいる所に愛着がわき、大切にしたい・守りたいという気持ちが生まれる題材である（肯定）。・なぜ「海を守るシーサー」をつくるのかをもっと考え、話し合う時間をつくり「人間が汚すゴミから美しい海を自分たちで守ろう！」など作品作りと道徳的実践力につながる決意などにつなげたい（改善）。・つくった作品を、海を使う人々がよく訪れるところに置くと、自慢の海、美しい海を守り続けてほしいという子どもたちのメッセージが広がりそう（改善）。
- ⑦：5年題材：「わたしの大切な風景」：学生G【教育的・人的】・がんセンターに入院されている患者さんとながり、自分たちが誰かのために何かしようという

思いやりの心や命の授業ともつながる。作品を病院に展示するというアイディアもGさんの優しさから生まれた企画だと思う（肯定）。・子どもたちと作品の写真を病院に展示することで患者さん方も心が温かく元気になれるのではないかと（改善）。・花や葉などは押し花にして長持ちするような方法を教え、送った相手に長く喜んでもらおうとする思いやりの心を育てたい（改善）。

- ⑧：6年題材「いちからつくろう！オリジナル竹とうろう」：学生H【行事的】・熊本は震災があった後だからこそ、子ども達の願いや想いがこもったものが出来上がると思う。地域の復興を願う多くの人の気持ちを象徴する題材になる（肯定）。・作品が祭りに飾られている様子などを写真に残し卒業アルバムに残したい。作品を体育館に並べ、全校集会などを開き、災害で亡くなられた方々の慰霊祭を行うことも良いのでは（改善）。・避難所生活をしている方々を元氣にするために、避難所などに設置し鑑賞してもらうこともよい（改善）。
- ⑨：6年題材「ぼくだけの・わたしだけの15番目の曳山」：学生I【行事的】・14台ある曳山に自分が想像した15番目の曳山を制作するという題材は、昔から続いてきた伝統に仲間入りするような感覚になり、意欲が高まると思う（肯定）。・曳山には一体一体にそれぞれ意味があると思うのでそこから学ぶことを大事にすることが、15番目の曳山をどんなものにするかのヒントになる（改善）。・総合的な学習の時間等で「唐津くんち」の歴史・由来等について調べたことや作品を駅やバスターミナル等に展示しても地域交流になる（改善）。

協同学習における発表者の提案内容のよさ（肯定）と私だったら（改善）という視点が学生間の支持的な雰囲気をつくり、提案者の教師としての適性や資質に関する評価も多かった。

3. 最終的な授業の振り返りシートに記載された内容

14回までの授業を振り返り、地域環境を生かした題材化の実践的・協同学習を通して、図画工作科の授業における地域環境の生かし方や題材化の価値、指導のあり方など、本授業で気づいたことを自由記述させた。表3に学生の自由記述から気づきの内容別に整理した一部を示している。2回目に行った児童画と教科目標等との検討の授業から、児童の表現活動や造形作品の見方についての気づきが多かった。「作品はその子の内面が出るものだし、出るように教師は工夫、支援をすること。」「上手、下手ではなく、子どもが自由に思ったことを表現した作品、またその過程を評価して一人一人の工夫や良さに気

づくこと。」「子どもの作品の一つ一つを『宝物』として、『自分と向き合う』教科である図工の時間に、たくさんの思いを感じさせてあげたい」という実践に繋いでほしい気付きもあった。感性・情操の教育や郷土愛をはぐくむ教科としての価値に触れ、「子ども達が作品の良いところを見つけていく中で、人の良いところにも気づくことが出来るような目を育てること」や「地域や人や物、自然、他教科、他学年、伝統など図工という教科はたくさんのことにつながりを持つことのできる深い教科」、「作品を作ることが何かとつながっていると子どもたちにも感じとることが出来るような指導」等、本授業が期待する気付きも多かった。題材開発・学習展開に関する気付きでは、「題材を通して気づかせたいこと・感じてほしいこと・学んでほしいことなどの視点をもつこと」や、「他教科や地域とのつながり、生活に生かそうとする心などの部分を育て」、「教師が思うような『何か』より、子ども達が考え、創り出した『何か』の方がより価値のあるもの、その支援のために教師は努力すべき」と記述している。さらにこの気付きは、「私達の背中を見て心の優しい子になり、不器用でも頑張ることが出来る子どもがきつと育つ」「日頃、あまり目立たない子が輝ける場を作り出すのも図工」「子ども一人一人が輝ける場面を作り出す図画工作科」等、求められる図画工作科の授業づくりと、教師の姿勢に繋がっている。これらの価値ある気付きに加え、最も多かった気付きが、教師間の協同学習の価値についてであった。「この授業で、授業は一人ずつっていくものではなく、様々な考えの人の意見を取り入れながらつくっていくことの大切さも学ぶことが出来ました。受講前は、自分だけでという考えが強かったのですが、この授業やボランティアをやっていく中で、それでは全く成長しないということに気づきました。授業も同じだと思います。」や、「提案者の発表を聴く時には、良いところをたくさん吸収しようという思いで取り組みました。皆の発表を聴くことで視野が広がり、自分の中にたくさんの引き出しができました。」「正直、苦手意識を感じていた図画工作の授業をここまで一生懸命に取り組んだのは初めてです。一生懸命考え、感じることで、こんなにわくわくすることができるなんて思ってもいませんでした。この授業では、クラスみんなが、熱意を持って意見を書いているのが伝わってきて、とても楽しい授業でした。」「認めることと認められることは人を変えられるのかなと思いました。」等など、ほとんどの学生が、協同学習の中で他の学生からもらう肯定的な評価コメントが授業への意欲につながったと記述していた。

4. 実習校地域に関する意識調査の結果（表2）

図画工作科教育法Ⅰの最終授業において受講生全員を

対象に実習校地域に関する意識調査を行った。教育実習先の小学校が母校（卒業校）である学生は127名で、何らかの理由で母校ではない小学校で教育実習をする学生が9名いた。アンケートでは、学生自身の小学6年生の頃と本授業の前・授業後の意識の変化についてと、地域素材を生かした図画工作科の題材を作成・実施することで、子どもたちの地域に対する意識の変化についての意見を求めた。以下がその結果である。

(1) 小学6年生の頃の地域に対する意識

質問1「小学6年生の頃の意識」は、表2の通り、「住みたい」、「できれば住みたい」と答えた学生は80名（58.8%）であり、約6割の学生が自分の住む地域に好意的な関心を持っていたことが分かった。その理由（自由記述）としては、「郷土愛が強い（地域に愛着がある、誇りに思う等）」27名、「地域の人が好き（人が温かい、仲が良い等）」25名、「地域の自然が好き（水がきれい、自然豊か等）」28名、「住みやすい（治安がいい、交通の便がいい等）」34名、「家族、親戚、友人がいる」23名であった。その他には、「この町のために働きたい」、「地元以外を知らなかった」、「皆で子どもを育てる雰囲気がある」などであった。「できれば住みたい」の理由には「不便もあるがこの地域に住みたい（お店がないのが不満等）」4名や、「その地域で教員になると思っていた」、「他の地域を知らない」、「都会も便利だろうと思った」、「転勤族の家庭だったから」などがあつた。

これに対し、「どうでもいい」、「あまり住みたくない」、「住みたくない」と答えた学生が56名（41.2%）いた。「どうでもいい」理由としては、「意識したことがない、将来のこと等は考えていなかった等」11名、「愛着がない」2名、「都会に住んでみたい、視野を広げたい等」11名、「地元でも都会でもどちらでもよい」3名であった。「あまり住みたくない」、「住みたくない」の理由は、「自分の地域（田舎）に対する嫌悪感（田舎が嫌、治安が悪い、不便等）」23名と「都会への憧れ」15名であった。

(2) 受講前の自分の母校地域に対する意識

質問2の「本授業を受ける前のあなたは自分の母校地域へどう思うか」とは、表2の通り、「住みたい」、「できれば住みたい」と答えた学生は、88名（64.7%）であった。小学6年生の頃よりも5.9%増加したが、その増加は「できれば住みたい」と答えた学生が11名増えたためであり、「住みたい」と答えた学生は3名減っている。

「住みたい」、「できれば住みたい」と答えた学生は88名で、その理由（自由記述）としては、「郷土愛が強い」49名、「地域の人が好き」8名、「地域の自然が好き」12

名、「住みやすい」9名、「家族、親戚、友人がいる」13名、「地元の学校で働きたい」9名、その他「他の地域に住みたい気持ちもある」9名や、「老後は地元に戻りたい」、「子どもの少子化、仕事等を考えると戻ろうか迷う」、「生活しづらくなれない限り住みたい」等であった。

一方、「どうでもいい」、「あまり住みたくない」、「住みたくない」と答えた学生は48名(35.3%)であった。「どうでもいい」理由(自由記述)は、「意識したことがない」5名、「愛着がない」5名、「都会等に住んでみたい」5名、「地元でも都会でもどちらでもよい」4名等であった。「あまり住みたくない」、「住みたくない」と答えた学生の理由は、「自分の地域(田舎)に対する嫌悪感」11名、「関心がない」2名、「別の地域に行きたい」3名、その他に「地元は大好きだが、住むのは別」、「東京に住みたい」、「地元は嫌いではないが、不便」、「外部からの新しい刺激がない」等があった。

(3) 受講後の自分の母校地域に対する意識

質問3の「本授業で小学校地域の「ひと・もの・こと」と子どもたちをつなぐ指導案の作成や学び合いをした今、あなたの母校地域への思いはどうか」の回答結果も表2から分かるように、「住みたい」、「できれば住みたい」と答えた学生は、120名(88.2%)であった。その理由としては、「郷土愛が強い」82名、「地域の人が好き」7名、「地域の自然が好き」7名に、新たな意見として「地域題材を生かしたい」37名があった。「将来子どもを育てるならここがいい」、「ひと・もの・ことの強い関係を大切にしたい」、「慣れ親しんでいる地域だからこそより愛情をもって地域と関わり、子ども達と一緒に学ぶことができるのではないか」、「地域題材を生かしたい」、「子ども達にとって良い環境であると気づいた」等があった。

これに対し「どうでもいい」「あまり住みたくない」「住みたくない」と答えた学生16名(11.8%)の理由は、「地元は好きだが、住みたくはない」2名、「皆の発表を聞いて、もっと他の地域へ行きたくなった」4名、その他「自分の地域が大好きになったし帰りたいと思うが福岡に居るメリットの方が大きい」「住みたいとは思わないがもっと自分の地域のことを知ろうと思った」「素晴らしい環境だが、自分にはもっと似合う場所がある」であった。

(4) 現場での地域題材の実践に対する意識

質問5の「1年生から系統的に地域素材を生かした図工の題材を作成し実践することで、子どもたちの地域への思いは変わると思えますか」については表2の通り、子ども達の地域への思いが「変わる」と答えた学生が133名(97.7%)である。その理由としては、「子どもたちの郷土愛を育てることが出来る」89名、「教師の指導力

で変わる」7名、「自分自身が変わったので子どもも変わる」11名、「それぞれの価値観による」2名、その他24名である。「変わらない」と答えた学生3名の理由は、「今まで気づけなかった地元の地域のよさに気づくことができるが、自分は地域に対する意識が変わらなかったため」、「地域の良さは伝わると思うが、意識が変わるかどうかは分からない」等であった。

V 考察

本研究は、本授業の受講学生一人一人が教育実習で担当する学年児童と地域環境をつなぎ、子どもたちが地域環境のよさに気付く図画工作科学習の内容構成や授業展開を考え指導案を作成し、地域環境を生かした図画工作科の題材化が学生(教師)の地域環境への眼差しをどのように変えていくのか、その教育的意義について検討することが目的であった。最終回にとったアンケート結果をそのまま学生の心情と受け止めることはできないが、受講者全員が学習指導案を作成し、ほとんどの学生が母校地域に新たな関心を持ち、郷土への眼差しが変わる機会となったと回答していることには、一定の評価を与えてよいのではなかろうか。また、協同学習における学生コメントの「気づき」の内容からも、図画工作科という教科と学生の母校地域環境を繋いだことは有効であったと捉えられる。学生が自らの児童期を過ごした住居環境だった地域環境のよさ・題材化できる地域資源について、遊びや体験的な学びを通してその価値を認知していたことが多くの提案から伺い知ることができる。地域の観光案内や地域情報サービス等に頼る学生が多いのではないかという心配もいらなかった。観察的な評価ではあるが、学生自身の地域とのつながりの豊かさや深さが、そのままグループや全体での説明時における目の輝きや言葉の強さとなって聴き手に伝わっていたことは学生相互にも感じていたようである。身近すぎて、その価値に気付いていない子どもたちに地域環境のよさを認知させる機会となる図画工作科の造形的な遊びや表現活動、鑑賞活動などは郷土愛やアイデンティティをはぐくむ重要な学びであることは間違いないのではないだろうか。さらには、「地域ブランド」ではなく、「地域環境」という言葉を用いたことも他地域との相対的な価値ではなく、より地域に密着した絶対的な価値を探る意識につながったのではないかと考える。

次にアンケート結果から見ると、約6割の学生が地域の人や自然が好きで、少数ではあるが「将来子どもを育てるならここがいい」という考えを持つようになった学生もいた。また、「小学6年生の頃の地域に対する意識」と「大学3年生になり授業を受講する前の地域に対する意識」を比較すると、「できれば住みたい」と答えた学生

が11名増え、「あまり住みたくない」等と答えた学生が12名減少している。さらに、受講後の母校地域に対する意識としては、約9割の学生が地元に住みたい、地元に対する興味・関心を持ったことが分かった。実践的な授業を通して、改めて地元の良さに気づき、その自分の気づきを地元に戻元したい、子ども達に伝えたいといった教育者としての立場から地元を捉えなおしている様子が伺える。また、その中でも「もっと地域について調べたい」学生が19名(14.0%)おり、授業を通してさらに地域題材に関して意欲的に取り組みたいという意気込みも感じられた。このように、学生自身が地域に密着した教育者としての視点を持つ動機づけに本授業が貢献したと考えられる。大多数の学生が地域環境を生かした授業を行うことで子どもたちの地元に対する意識は「変わる」と答えており、地域に対する認知を深めることが子どもたちの郷土愛を育てることに繋がると考えているようである。様々な視点から地域を捉えることでより深い学びの可能性を示唆している。また、「教師の指導力」が重要であると捉えている学生も7名おり、「社会科なども絡めながら図工を進めることで地域への思いが変わる」など建設的な意見もあった。その他、「小学生の時はなんとなく地域素材に触れるだけかもしれないが、少しずつ大きくなっていくうちにそういうものに触れた分だけ地域への思いは強くなると思う」、「通学路としてただ通り過ぎるだけの道や風景、遊ぶことに忙しく見ていない所を題材とすることで、子どもたちの見方や考え方が広がるし、探究心や他教科への意欲にもつながると思う」等の貴重な意見もあった。次に、「変わらない」と答えた3名の学生の授業後の意識は、「住みたい」、「できれば住みたい」、「住みたくない」に1名ずつ回答しており、「授業をただで本気で子どもの意識が変わるのか」という疑問を持っていることが感じられる。いずれにしても本授業を通して、学生一人一人が、今の自分、子ども、教師、地域、の関係性、影響を捉えなおし、自分なりの答えにたどり着いたのだと言えるのではなかろうか。

VI 今後の課題

実習校地域環境に視点を当て、地域環境を生かした図画工作科の学習指導案を作成したことによる受講者学生の母校地域への認知とアイデンティティの変容をどう教育現場の実践に繋げるかがこれからの課題である。子どもの地域環境への認知やアイデンティティの変容を図ることがねらいであり、今回の実践は、主観的な私見が学生の共感を得て、より強い着想になったという段階でしかない。これを実現させるためのより具体的な構想を立て実践方法等の検討に入り、教育現場で実践してもらえらる学習指導案にしていかなければならない。今後の取り

組みとしては次のように考えている。

1. 今回の素案を基に、次年度の図画工作科教育法Ⅰの学生が教育現場での実践が可能かどうかの検討を加え、物的・人的な準備も含めた具体的な改善案を作成する。
2. 改善した指導案・プレゼン資料を教育実習校の指導教官等に説明し、授業実践に向けた事前協議を実施する。現場の先生方の評価・反応を集める。
3. 現状把握のために実習校の図画工作科の年間カリキュラムにおける地域環境と連携した題材数、内容等から教育現場の現状を把握する。
4. 本授業で学生が作成した学習指導案はすべて子どもの表現、造形活動(作品)の鑑賞活動に地域を活用する鑑賞活動案であった。地域環境を鑑賞する独立的な鑑賞活動の学習指導案を作成させる。

授業後の学生のコメントを紹介する。「提案しているとき、皆が真剣に発表を聞いてくれて嬉しかった。指導案を書いてよかったと感じた。また、この機会を通して改めて唐津の良さや母校の地域環境の良さを知ることができた。この指導案をぜひ現場で実践したいと強く感じた。」すべての地域にその地域ならではの子どもの造形・鑑賞活動に生かせる教育的価値のある地域環境がある。見過ごしたり見落とししたりしている大切な『宝物』がある。知識基盤社会と言われ情報化、グローバル化が進む時代だからこそ、子どもたちが自分の地域をより身近なものと感じ大切にしていこうという意識をもつ学びが重要なのである。地域の次代を担う子どもたちの郷土愛やアイデンティティをはぐくむため、様々な教育活動や地域活動の連携、協力を推進するとともに図画工作科では地域環境を生かした題材化に取り組み、表現・鑑賞活動における環境への「共感」「探求」「創造」的な学びを経年的に実践し、地域の豊かな自然、歴史ある伝統・文化を尊重・継承・創造していく人材を育成しなければならないと考える。これらを実現するためにも、地域環境の題材化についての実践的研究を今後も続けていきたい。